

聖霊降臨節第9主日、平和聖日(緑)

主日礼拝

2025年8月3日 10時20分～

司式:

奏楽:

《神の招き》

前奏	『キリストよ、あわれみたまえ』 J.S. バッハ
招詞	イザヤ書49章10節
賛美歌	205

《神の言葉》

祈禱書	聖霊の照らしを求める祈り	
	創世記21章9～21節	(旧約27頁)
	ローマの信徒への手紙9章19～28節	(新約281頁)

こども説教		
交読詩編	詩編102編16～23節	(119頁)
賛美歌	416	

説教	「あわれみの器」	八木浩史牧師
----	----------	--------

祈禱	
賛美歌	560

《感謝の応答》

信仰告白	使徒信条	
献金		献金当番
祈禱		
主の祈り	(週報表紙、ホームページ掲載)	

《派遣》

頌栄	I - 543
祝福	
報告	8月誕生者祝福
後奏	

礼拝当番:	(役員:)	献金当番:
音響:		映像:

■■■ 調布教会は2026年度に創立80周年を迎えます! ■■■

「あわれみの器」

『創世記』では、アブラハムとサラの間にイサクが生まれたことで、女奴隷ハガルとその息子イシュマエルが追放されます。イサクをアブラハムの跡継ぎにしたいサラは、ハガルとの間に生まれていたアブラハムの息子イシュマエルを邪魔だと思ったからです。荒れ野をさまようハガルとイシュマエルでしたが、飲み水が無くなり死にかけました。ハガルも声を上げて泣く他はなかったのです。その時、神の使いがハガルに呼びかけて、井戸を見つけさせ、救われたのです。「私は彼を大いなる国民とする」と、神が約束されたようにイシュマエルはやがて、ネゲブの遊牧民イシュマエル人の祖先となります。アブラハムとサラにとっては不要と思えたハガルとイシュマエルでしたが、神は憐み、守り、必要な存在として活かされたのです。

『ローマの信徒への手紙』では、異邦人伝道に反発するユダヤ人が、異邦人をも受け入れることができるようになるために、神の救いのご計画について、パウロが語ります。神はかつてイスラエル(ユダヤ人)を神の民として選ばれましたが、今やユダヤ人に限らず、キリストを信じる信仰によって救われるのです。ゆえにユダヤ人も悔い改めて、キリストを信じる必要があります。これは神の気まぐれではありません。神からの怒りを受ける「怒りの器」に対して、神は忍耐して待っておられるのです。神は全ての人が「憐みの器」となるべき存在として憐み、愛されるのです。本日は「平和聖日」です。私たちも「怒りの器」から「憐みの器」とされたのです。全ての人と主にある平和をつくっていきましょう。